



## 救命処置で助け合える社会を 心肺蘇生法・AED講習会



心肺蘇生法を学ぶ参加者

東城消防署は9月6日、心肺蘇生法・AED（自動体外式除細動器）を使用した救命処置を広く市民に普及するため、東城公民館で救命講習会を開催しました。

参加者は、心肺蘇生法・AEDを使用することの大切さなどについて講義を受け、救急車が到着するまで何もしないで待つのではなく、1分1秒を大切に救命処置をすることを学びました。その後、グループに分かれて参加者一人一人がマネキンを使って実習を行いました。

指導した署員は「AEDを使用することが一般市民にも認められ、東城地域の公共施設や企業などにも設置されていますが、使用方法を知らなければ、いざという時に役に立たない。一人でも多くの市民に救命処置を知ってもらい、家族や友人などが倒れたとき、勇気をもって助け合える社会を一緒に目指していきたい」と話していました。

## 高齢者の交通事故防止を図る 高齢者交通安全教室

9月21日から30日までの「秋の全国交通安全運動」の一環として、9月18日、庄原市ふれあいセンターで、「平成20年度高齢者交通安全教室」が開催されました。

高齢者の交通安全意識の高揚と、交通事故防止の徹底を図ろうと、庄原市をはじめ庄原警察署、庄原市老人クラブ連合会、庄原地区交通安全協会、(社)広島県自動車整備振興会三次支部が共催し、高齢運転者48人が参加しました。

教室では、夜間の交通事故防止のため、庄原地区交通安全協会から庄原市老人クラブ連合会へ交通安全反射タスキを贈呈。また、車両点検や発煙筒のたき方の指導、エアバックの実体験などが行われました。

参加者は、普段から自分で点検している人は少なく、質問などをしながら真剣に話を聞き、定期的な点検の大切さを再確認しました。



車両点検を学ぶ参加者

## 子どもたちに昔の遊びを伝承 口和郷土資料館でイベント

小学生を対象に「昔の遊びを楽しもう」と銘うったイベントが8月21日、口和郷土資料館で行われました。

これは、映画上映など大人を中心にイベントが行われている郷土資料館を、子どもたちにも親しんでもらおうと、郷土資料館の後援会が企画しました。

参加した20人の子どもたちは、水鉄砲やメンコ、お手玉など、昔からの遊び道具を制作。完成したおもちゃで遊び始めると、すぐに夢中になっていました。また、地元の方が用意した昔ながらのお菓子を舌鼓をうったり、館内にあるさまざまな展示品に見入ったりして楽しみました。

この教室を主催した平川公司さんは「今後もこのようなイベントを通じて郷土資料館を利用し、子どもたちに郷土のいろいろな物に触れてもらいたい。また冬ごろに開催できれば」と抱負を話していました。



お手玉を楽しむ子どもたち

## 地元住民らが活躍をねぎらう 金藤理絵さんを祝う会

北京五輪女子200m平泳ぎで7位入賞した金藤理絵さんを祝う会が9月17日、庄原グランドホテルで行われました。

金藤さんの地元、山内自治振興区が主催し、地元住民や関係者ら73人が出席し、北京五輪での健闘を称えました。

藤岡辰彦区長は「近年、庄原がこれほど熱く盛り上がったことはない。4年後は日本一から世界一を目指してほしい」とあいさつ。

とあいさつ。滝口季彦市長は「金藤さんの活躍は、市民へ夢や感動を与えてもらった。ふるさと庄原でしっかり疲れを取って、次の目標に向けてがんばってほしい」とねぎらいました。

会場では、北京五輪の決勝レースをスクリーンに映したり、北京五輪で密着取材した新聞記者や三次スイミングスクールで金藤さんを指導した藤田和恵コーチがエピソードを語ったりしました。

金藤さんは「持って生まれた才能が素晴らしいと言われることもあるが、それを開花させてくれたのは家族やコーチであり、ふるさとの皆さん。周りの人に感謝している。4年後のロンドン五輪で金メダルが取れるよう、これからもがんばりたい」と話していました。



「応援ありがとうございます」とあいさつする金藤さん

## 都会っ子に農村の良さをPR 三河内地域振興会で農家民泊

国の「子ども農山漁村交流プロジェクト」の一環で、8月26日から28日の3日間、比和町の三河内地域振興会が、福山市立西深津小学校5年生76人を受け入れました。

このプロジェクトは、総務省、文部科学省、農林水産省の3省が連携して、学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進するものです。

比和町を訪れた子どもたちは、三河内地域振興会の農家へ民泊し、農作業や牛とのふれあい、登山などを満喫しました。

国は今後5年間で、全国23,000校の小学校（1学年約120万人）を目標に、農山漁村で一週間程度の交流・滞在を推進しており、本市も受け入れ体制の整備を進めています。



かしわもちづくりを体験する子どもたち

## ● 残暑にさわやかな音色を楽しむ フルート教室がミニコンサート



フルート演奏を楽しむ子どもたち

総領公民館で活動しているフルート教室が8月20日、総領保育所でミニコンサートを開催しました。このフルート教室は毎週火曜日に小中学生を含む9人が練習しています。

この日は、日ごろの練習の成果を披露しようと、園児や放課後児童クラブの児童などを前に、クラシックから子どもたちにおなじみのアニメ映画の主題歌など12曲を演奏しました。

子どもたちは、知っている曲が演奏されるとうれしそうにして、さわやかなフルートの音色を楽しみました。

## ● パン作りを通して地域交流 しあわせ館「パンの日」

9月5日、西城保健福祉総合センターしあわせ館の「パンの日」に、比和支所の介護予防事業「わくわく健康クラブ」のメンバーが訪れ、パン作りを体験しました。

しあわせ館の「パンの日」は、ボランティアグループ「しあわせ運ぶパン屋さんの会」が毎月第1金曜日に開催。メンバーが季節の食材を持ち寄っているようなパンを手作りし、焼きあがったパンは、しあわせ館を訪れた人たちにもてなし、おいしいと好評です。

手作りパンの活動を体験しようと訪れた「わくわく健康クラブ」の8人は、ボランティアコーディネーターの指導で、ビニール袋に材料を入れて生地をこねる方法を体験。「紫芋パン」や「ごまチーズパン」など6種類、約200個のパンを作り、来館者に配ったり、自分たちも手作りの味を味わったりしました。

比和町の参加者は、「ビニール袋を使ったパン作りは、簡単に手に生地もつかず勉強になりました。これからもいろいろな地域で活動されている方々と交流を深めたい」と話していました。



形を整えたパンをプレートに並べオープンへ

## ● 食事を楽しみ、たたらを語る 中国山地の“たたら”と文化



神楽の舞を楽しむ参加者

「たたらを語る座談会」が9月12日、市街地交流施設「楽笑座」で行われました。

たたらへの遺構が多く残り、鉄作りが盛んだ中国山地の歴史と文化に理解を深めようと、楽笑座友の会が企画し、約50人が参加しました。

参加者は「たたら米おむすび膳」を食べながら、比婆荒神神楽の「ヤマタノオロチ退治の舞」を鑑賞。たたら文化に詳しい広島県立大学の野原建一名誉教授と広島県立歴史民俗資料館の伊藤実学芸課長が、たたら歴史や、たたらと神楽の関係などについて語りました。

## ● 異文化体験を発表し国際交流 日本語スピーチコンテスト



フィリピンダンスを披露

しょうばら国際交流協会と口和公民館が8月31日、口和町のヒューマンライツで「第7回日本語スピーチコンテスト」を行い、県内に在住する海外出身者が日ごろの学習の成果を競いました。

18人の発表者は「納豆はだめだが、白菜の漬物を煮たものは大好きになった」「清掃や整理整頓が徹底されている日本の企業姿勢に感心した」など、日本に来て感じたことや苦労したことなどを話しました。

審査の結果、金賞は庄原市平和町の長重アリシアさんが受賞。また、130人の来場者による投票で決定する「会場賞」なども設定され、それぞれの受賞を喜びました。

その後、フィリピン料理をメインとした昼食会を行い、フラダンスやフィリピンダンス、そして地元の口和音頭で交流を深めました。

参加者は「国際交流は言葉の壁があるが、それを乗り越えて交流することで、人と人がつながっていくことを実感した」と話していました。



自分の思いを日本語で発表

## ● 朝鮮人犠牲者の思いを後世に ふるさと村高暮 平和の集い



子どもたちによる平和への誓い

戦時中、日本に強制連行され、高野町の高暮ダム建設で犠牲となった朝鮮人を追悼する「ふるさと村高暮 平和の集い」が9月14日、ダム湖畔の追悼碑前で行われました。

この集いは、過去の歴史を忘れず後世に語り継ぐと高暮自治振興区が平成12年から毎年開催しています。

地元住民や広島朝鮮初中高級学校の生徒ら約70人が参加。広島市立大広島平和研究所の浅井基文所長の講演を聴いた後、慰霊碑に花や千羽鶴を手向け、犠牲者の冥福を祈りました。

企画した後藤信房区長は「過去の大きな犠牲を伴った歴史を教訓とし、日朝の親善、世界平和に努力していきたい」と話していました。

## ● 社協が夏休みの思い出づくりを企画 こどもサロンわんぱくひろば

8月25日、西城ふれあいセンターで、わんぱくひろばが開催されました。

本年度から西城ふれあいセンターの指定管理者となった庄原市社会福祉協議会西城地域センターが、子どもたちに夏休みを楽しく過ごしてほしいと開催し、町内の小学生12人が参加しました。

夏休みの宿題に取り組んだ後、ゲームやレクリエーションを楽しみ、昼食には、地域の人たちが料理した季節の野菜をたっぷり使った夏カレーを味わいました。午後からは、屋外に出かけて集めてきた葉っぱをはがきにスタンプして、葉っぱ模様の絵はがき作りにチャレンジするなど、1日楽しい時間を過ごしました。

社会福祉協議会西城地域センターでは、「これからもこどもサロンのような行事を企画し、たくさんの人にふれあいセンターを利用してもらいたい」と話していました。



葉っぱをスタンプして絵はがき作り